

女性医師の窓

麻酔科医の16年間

金沢大学附属病院麻酔科蘇生科 小室 明子

麻酔科医となつてからの16年を振り返ってみようと思います。

何故麻酔科医になつたのか？学生時代に麻酔科の臨床実習で、一緒に麻酔を担当させていただいた麻酔科医に「女性は男性よりも安定を求めるとし、麻酔にはむいていると思うよ。」と言われたこと、また、麻酔科では救急、集中治療、手術麻酔、ペインクリニックなど、いろいろな分野の仕事ができる可能性があることも分かり、麻酔科に決まりました。

研修医1年目はあっという間に過ぎ、2年目に医師と結婚、3年目には長男を出産。長男はずっと逆子でした。妊娠中はその時に勤めていた石川県立中央病院の産婦人科のベテラン医師にみていただきましたが、「大丈夫。普通に下から産めるでしょう。」と言われ、頑張ることとなりました。38週で産徴があり入院しましたが、分娩が進まず、翌々日に誘発しました。朝から誘発して昼頃には陣痛がつき、腰痛と戦っていたら破水、そのまま分娩台に。逆子では陣痛がきても、ある程度子供が降りてくるまで、いきんではだめとのことで、ひたすら陣痛に耐えていました。分娩台で6時間位頑張つてようやく生まれました。臍帯が首に二重に巻いていたらしく、これが逆子の原因だったのでしょか。(たまにポーッとしているのはこのせい?)産後は3カ月半で復帰しました。保育所は石川県立中央病院の院内保育所と、夫の職場の福井の病院の院内保育所の二カ所で預かってもらいました。自分の当直の日などは、夫が車と電車で福井まで子供を連れて行って、福井の保育所で預かってもらいました。もちろん、その時は夫が育児全てをしてくれました。夜中も、電車の中でもミルクをあげたり、オムツをかえたりしてくれたのだと思います。金沢育ちの私には考えもつかない、乳飲み子連れでの福井電車通勤。お陰で、何とかフルタイム勤務が可能でした。

4年後には二人目を妊娠。この時は金沢大学病院勤務で医局員の数も多かったので、妊娠中は当直、宅直は免除していただきました。そして予定日の6週間前に産休に入りました。その数日後に、突然長男の左目が内転し、そのまま大学病院に検査入院、ウイルス性の外転神経麻痺とのことで、ステロイドパルス療法などをすることになりました。しかし、基本的には元気な4歳児で、教授回診なども大人しくしてくれるはずもなく、日中は手を焼きました。小児科病棟の大部屋で、夜はレンタルの簡易ベッドで私自身は寝ることになりましたが、妊娠9カ月の私にとっては、とてもしんどい夜でした。幸い、長男の症状は徐々に改善し、1週間で退院、その後完治しました。二人目はスルッと生まれ、それも待望の女の子。産後は7カ月で復帰しました。子供達はほとんど保育園の先生方に育てて頂いたと言えるくらい、朝早くから夜遅くまでみていただきました。自分が当直の日には、夫が家事、育児をしてくれています。そんなこんなで、何とか両親ともにフルタイム勤務をしています。しかし、子供が病気になった時などには、何度仕事を辞めたいと思ったことか。

今や長男は中学生、長女もいろいろとお手伝いをしてくれます。いくつになつても子供はかわいいです。だんだんと手がかかなくなり楽になっていますが、逆にどのように接したら良いのか分からず悩むことも多々あります。しかし、家族皆が心身共に健康に過ごせている事に感謝して、一日一日できることを頑張ろうと思っています。